

令和2年度 目標達成シート

【江戸東京博物館】

基本方針		達成目標						成果と課題																																															
		（令和2年度における目標）						（成果、分析、評価、課題、対応）																																															
「指定管理提案書」に掲げた「6つの事業」に基づき、江戸東京博物館・江戸東京たてもの園の基本方針を以下のとおりとする。	<p>1. 資料：歴史と文化の〈継承〉</p> <p>(1) 60万点の「江戸博コレクション」を都民のかけがえのない文化遺産と位置づけ、未来の都民へと継承すべく大切に保管する。</p> <p>(2) 分館のたてもの園では、収蔵建造物30棟について、長期保全計画及び修繕サイクルに基づく、適切な保存と計画的な修復を行う。</p> <p>(3) 東京2020大会にかかわる資料を積極的に収集することによって、その「レガシー」のアーカイブ化を促進していく。そのため資料のデータベース構築とウェブ公開を計画的に推進する。</p> <p>(4) 大規模改修について、基本設計を都と協力して進め、収蔵品の計画的な搬出を行う。</p> <p>2. 展示：歴史と文化の〈発信〉</p> <p>(1) 常設展示を中心として、豊富な実物資料や精巧な複製・模型を活用し、またICT技術を駆使した多面的な展示解説などによって、外国人や子供・青少年をはじめとする様々な層に、江戸東京の歴史と文化の多彩な魅力を発信する。</p> <p>(2) 特別展は、江戸東京という都市史の専門博物館という当館の固有性に基づき、国内外の都市比較も視野に入れつつ、オリジナリティあふれる企画を開催する。</p> <p>(3) 分館のたてもの園では、収蔵建造物の展示のさらなる充実を主体とするほか、町並みや周辺環境の再編により、園全体での本格的な情景再現を行う。</p> <p>3. 教育：歴史と文化の〈学舎〉</p> <p>これまでの教育普及事業を発展させていくとともに、子供・高齢者・外国人・障害者と対象を絞り、「少子高齢化」や「成熟社会」の到来など、時代の要請に応じた新たな教育普及プログラムを開発のうえ実践する。</p> <p>4. 運営：歴史と文化の〈拠点〉</p> <p>(1) 「3S方針」(Safety:安全・安心、Service:おもてなし、Sense of Wonder:感動する博物館)を堅持するとともに、来館(園)者・資料・館スタッフの安全確保を運営の第一とする。とりわけ、テロ対策をはじめ「危機管理」については、最優先の課題として、全館・全園を挙げて取り組む。</p> <p>(2) 開館から25年が経過し、老朽化と不具合が目立つ館の管理運営にあたっては、より適切な予防保全を行い安全性確保に努める。また来るべき「大規模改修」に備え、これまで培ってきた館運営のノウハウを改修に反映させ、東京都の文化施設としてのグレードアップを推進する。</p> <p>5. 研究：歴史と文化の〈究明〉</p> <p>(1) 江戸東京学の研究センターとして、「江戸東京の歴史と文化」をテーマとする調査研究を促進し、その成果を展示をはじめ、本館・分館のさまざまな事業に反映させ都民へ還元する。</p> <p>(2) 分館のたてもの園においては、野外収蔵建造物30棟について、包括的、かつ詳細にわたる調査研究を実施し、1棟ごとの詳細なデータベースを構築する。これに基づき、園の展示、解説、公式図録などに反映させ、ウェブサイトをはじめ公開を促進する。</p> <p>6. 交流：歴史と文化の〈展開〉</p> <p>(1) 19年間にわたり築いてきた北京首都博物館・ソウル歴史博物館・瀋陽故宮博物院との国際交流を実施するほか、欧米の主要博物館・美術館との連携もこれまで以上に深め、とりわけ、東京都の友好都市の博物館などは、「都市交流展」を実施する。</p> <p>(2) 「全国歴史民俗系博物館協議会」の連携を事務局館として推進するほか、両国・深川地域ネットワーク(本館)、多摩地域ネットワーク(分館)を高め、街づくりの活性化や各施設の回遊性を高める取り組みも行う。</p> <p>(3) 当財団のスケールメリットを大いに生かし、収蔵品の相互活用、演奏やパフォーマンスの活動場所の相互提供、共通の広報宣伝などにより、東京都の文化施設としてのプレゼンスに取り組む。また、その一環として財団各施設が使用できる共通の展示室および収蔵施設を新設する検討を行う。</p>	<p>① 資料</p> <p>●「江戸博コレクション」を適切に保全することはもとより、展示を念頭におき、江戸東京の歴史と文化を国内外に発信できる資料の収集を行う。</p> <p>●都民の「江戸東京の歴史と文化」の「継承」の役割を果たすため、ウェブサイトをはじめ収蔵資料の公開に向け、資料データの整備を促進し、資料情報システムを適切に運用する。</p>	<p>●江戸博コレクションの充実に資する歴史史料、美術品、生活民俗資料など、約1,400点を新規に収集した。特に、「上野浅草図屏風」、葛飾北斎「鯉図」、火消関連コレクションなど、当館の既収蔵品を補完する貴重な資料を加えた。</p> <p>●Webサイトでの収蔵品の公開を促進するため、公開システム「江戸東京博物館デジタルアーカイブス」を新たに構築し、約16,000点の資料を開示した。資料撮影、英訳を並行して進め、コンテンツの充実を図った。</p> <p>●2022年に開始予定の大規模改修工事に備え、収蔵品の外部倉庫への移送計画を着実に実施。工芸品等の状態調査と、歴史資料及び生活民俗資料の梱包・輸送を行った。あわせて、映像音響資料のデジタル変換や寄託資料の寄贈への切替えなども進めた。</p>																																																				
		<p>② 展示</p> <p>●展示環境のさらなる改善を図るとともに、「江戸博コレクション」を最大限に活用した展示を追求する。さらに、江戸博のミッションを具現化する企画展を開催する。</p> <p>●東京2020大会に際し、カルチュラル・オリンピックを念頭に置き、東京のフラッグミュージアムとして質が高く、世界から訪れる人びとが注目するような特別展を開催する。</p>	<p>●常設展示室では、常時、2,000点以上の資料を展示するとともに、定期的に展示替えを行った。また企画展は4本を開催した。コロナ禍に対応し、清掃や消毒に加えて、体験資料や手すりなどへの光触媒による抗ウイルス・抗菌加工を施し、感染防止対策を徹底した。</p> <p>●特別展、企画展ともに、東京2020大会の延期とコロナ禍による休館に柔軟に対応し、計画していたラインナップを大きく変更した。展示室に足を運ぶことのできない方々のために、WebやSNSを活用したオンライン・コンテンツを発信し、展示会の魅力を多くの人々に伝えることに努めた。</p> <p>●大規模改修工事の準備のため、常設展示室に新たに設置予定の大型模型の実測調査を実施した。</p>																																																				
		<p>③ 教育</p> <p>●教育普及を重点事業とし、とりわけ子供・高齢者・障害者・外国人に向けた館独自のプログラムを開発し、実施する。東京2020大会の開催にあたり、情報発信ツールは多言語で対応することとする。</p> <p>●大規模改修工事中の本格実施に向けて、アウトリーチの試行を積み重ねる。</p>	<p>●教育普及事業の実施にあたっては、感染症拡大防止のため、参加人数の定員を制限したり、整理券方式を導入するなど、密を避けるための運営方法を工夫した。ボランティア活動の再開時には、活動方法を変更し、感染防止に配慮した。</p> <p>●コロナ禍による休館及び感染防止のため、外国人向け伝統芸能プログラムやミュージアムトークの一部の教育普及活動を休止した。実際の活動に代えて、春・夏期の「えどはく寄席」や「さわってみよう昔の道具」などのオンライン・コンテンツを発信した。</p>																																																				
<p>④ 運営</p> <p>●「来館者」「館スタッフ」「博物館資料」の安全・安心を確保し、「いかなる事故も起こさない！」を第一に、とくに個人情報の取扱いには細心の注意を払うとともに、「危機管理」を最優先の課題として取り組む。</p> <p>●ショップやレストランをはじめ、あらゆるミュージアム・シーンにおいて、館の運営目標である「祝祭空間の新たな創出」を実現すべく、来館(園)者の心に残るような行き届いたサービスを提供する。職員やスタッフの全員が常に顧客満足度調査の内容を意識して業務にあたり、お客様へのホスピタリティを向上させる。もって「江戸博ブランド」を確立させていく。</p> <p>●顧客ニーズの「先取り」を図り実施していく。外部評価など、第三者の指摘や意見を真摯に受け止め、PDCAサイクルを敢行する。</p> <p>⑤ 研究</p> <p>●調査研究を館事業の根幹を支える重要な基盤として位置づけ、展示はもとより、「えどはくカルチャー」、紀要や史料叢書などの刊行物をとおして、その成果を広く都民に還元する。江戸東京の歴史と文化の独自性を比較の観点から検討するため、国立歴史民俗博物館や国内外の博物館等との連携を深めていく。</p> <p>●図書室の機能をさらに充実させ、都民が「江戸東京の歴史と文化」を学べる「入り口」とする。また、他機関との書誌情報検索システムの連携を密にし、検索機能を向上させ都民サービスの向上を図る。</p>	<p>●委託事業者と館が、毎日の「タ礼」の場を活用して情報の共有化を励行した。その結果、日々の現場で起きる課題に迅速、かつ適切に対応することができた。また、案内、警備、施設管理をはじめ、レストランやショップなども加えたすべての構成メンバーが、月に一度の「現場連絡会」に参画することによって、相互に「顔の見える」関係を構築し、良好な館運営につながることができた。さらに災害時の一時滞り施設としての運営体制の強化を図るため、新たに委託事業者と館の職員で構成する「江戸博防衛隊」を組織した。</p> <p>●レストラン・カフェがR2年12月に撤退したが、その後特別展のコラボカフェの誘致や、4月以降の運営者の誘致を積極的にに行い、コロナ禍においてもこれまで以上にお客様サービスの向上に努めた。</p>																																																						
<p>⑥ 交流</p> <p>●都民はもとより、世界各地からの人びとの来館を促すべく、江戸東京博物館の豊富な情報を広く深く発信する。</p> <p>●関連機関と連携し地域振興に貢献する。江戸東京博物館を、両国→墨田→東京→日本の文化発信の拠点としてさらにに定着させる。</p> <p>●アジアや欧米の主要都市の博物館・美術館との文化交流を促進し、展示会をはじめ、さまざまな事業の実施をとおし、人的交流も推進する。</p>	<p>●19回目となる日中韓3カ国4館の国際シンポジウム、ならびにソウル歴史博物館で秋に開催予定の交流展「隅田川—江戸時代の都市風景」は、パンデミックのため延期とされたが、再開に向けた準備をすでに始めている。</p> <p>●ポーランド・クラフで6月に開催予定であったFIGOM(国際博物館会議)の分科会「CAMOC」(都市博物館のコレクション・活動国際委員会)年次会議は延期されたが、2019京都大会での当館の発表がCAMOCのホームページに掲載され、Web上で発信をすることができた。</p> <p>●当館が事務局館を務める「全国歴史民俗系博物館協議会」の総会は延期のうえ書面開催とした。同じく同協議会事務局館の国立歴史民俗博物館と連携して、ホームページのリニューアルを行い、利便性の向上を図った。また1崎市市民ミュージアムへのレスキュー活動に参加するとともに、事務局館として加盟館との連絡調整を行った。</p>																																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量目標】</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>H31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観覧者数(人)</td> <td>716,924</td> <td>908,868</td> <td>1,132,272</td> <td>1,151,800</td> <td>376,009</td> </tr> <tr> <td>自主事業等の参加者数(人)</td> <td>87,779</td> <td>92,053</td> <td>84,437</td> <td>70,000</td> <td>25,541</td> </tr> <tr> <td>常設展:534,063 特別展:182,861</td> <td>常設展:908,868 特別展:(工事中)</td> <td>常設展:839,133 特別展:293,139</td> <td>常設展:723,000 特別展:428,800</td> <td>常設展:210,997 特別展:165,012</td> <td></td> </tr> <tr> <td>≪事業実績値≫</td> <td>29年度実績</td> <td>H30年度実績</td> <td>H31年度実績</td> <td>R2年度目標値</td> <td>R2年度達成値</td> </tr> <tr> <td>HPアクセス件数</td> <td>6,047,368</td> <td>6,528,662</td> <td>7,303,328</td> <td></td> <td>5,069,646</td> </tr> <tr> <td>付帯事業収入(千円)</td> <td>109,224</td> <td>151,113</td> <td>161,947</td> <td></td> <td>54,776</td> </tr> <tr> <td>デジタルミュージアム(公開画像数)</td> <td>27,851</td> <td>28,476</td> <td>29,090</td> <td></td> <td>51,745</td> </tr> </tbody> </table>	【定量目標】	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	観覧者数(人)	716,924	908,868	1,132,272	1,151,800	376,009	自主事業等の参加者数(人)	87,779	92,053	84,437	70,000	25,541	常設展:534,063 特別展:182,861	常設展:908,868 特別展:(工事中)	常設展:839,133 特別展:293,139	常設展:723,000 特別展:428,800	常設展:210,997 特別展:165,012		≪事業実績値≫	29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	HPアクセス件数	6,047,368	6,528,662	7,303,328		5,069,646	付帯事業収入(千円)	109,224	151,113	161,947		54,776	デジタルミュージアム(公開画像数)	27,851	28,476	29,090		51,745	<p>(成果、分析、評価、課題、対応)</p> <p>令和2年2月29日～6月1日まで、新型コロナウイルス感染防止による非常事態宣言発出にともなう臨時休館、さらに2020東京大会延期によるラインナップの大幅な組み換えなどの策定を余儀なくされたことから、入場者数は著しく低迷した。したがって、定量目標の成果については、例年どおりの達成値の評価、あるいは対前年度比較が順当にできない状況がある。東京都の姉妹友好都市・ベルリンの国立ベルリン・エジプト博物館が所蔵する名品を活用した特別展「古代エジプト展」はかろうじて開催できた。これは同館のクーリエが感染のリスクを冒して来日、2週間の隔離を経て通関作業を行い借物が実現したものである。感染対策としては、東京都や日本博物館協会が示すガイドラインを順守した。館独自には、常設展の体験資料やイヤホンガイド機器、手すりほか光触媒による「抗ウイルスコーティング」を施したことが挙げられる。</p>					
【定量目標】	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																																		
観覧者数(人)	716,924	908,868	1,132,272	1,151,800	376,009																																																		
自主事業等の参加者数(人)	87,779	92,053	84,437	70,000	25,541																																																		
常設展:534,063 特別展:182,861	常設展:908,868 特別展:(工事中)	常設展:839,133 特別展:293,139	常設展:723,000 特別展:428,800	常設展:210,997 特別展:165,012																																																			
≪事業実績値≫	29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																																		
HPアクセス件数	6,047,368	6,528,662	7,303,328		5,069,646																																																		
付帯事業収入(千円)	109,224	151,113	161,947		54,776																																																		
デジタルミュージアム(公開画像数)	27,851	28,476	29,090		51,745																																																		
	<p>定性的目標</p>	<p>(成果、分析、評価、課題、対応)</p>																																																					
	<p>定量目標</p>	<p>総合的な所見(自己評価の総評)</p> <p>令和2年度における江戸東京博物館の運営は、かつて経験したことのない苦難の連続であった。いうまでもなく新型コロナウイルスによる感染拡大である。非常事態宣言の発出とともに、2月29日から6月1日まで臨時休館の措置をとった。常設展、企画展、特別展をはじめ、計画していた事業は中止、一部中止、延期、オンライン化などを余儀なくされた。くわえて東京2020大会の開催記念として特別に位置づけていたものも、翌年に延期して実施することとし、ラインナップの組み換えなどに腐心した。影響を及ぼした事業数は、大小を合わせて実に200以上にのぼり、定量・定性目標の双方の成果は惨憺たるものとなった。国際交流事業に至っては、わが国のみならず相手国の感染状況にも大きく左右されることからこの災禍は文字どおり「パンデミック」=世界的蔓延であり、それは文化交流においても大きな障壁をもたらした。グローバル化時代の時代といわれる現代は、「人・もの・情報」が時間と空間をたやすく超えて地球的規模で瞬時に行き交う。ウイルスも国境を跨いでまたたく間に世界を襲った。結果、たとえばヘイトクライムなどの頻発にみられるとおり、人びとの間で不安と憎悪が生じている。しかし、一方でこんなときだからこそ文化に救いを求める人びとがいる。当館が再開を果たした際、来館者から感謝の言葉をいただいた。いわく「館が開いているだけでもほっとするのだそうだ。コロナ後は必ず訪れる。いま、あまたの人が希求する平穏な日常生活——その傍ら、国内外で文化を担う仲間たちと手をたずさえて、質の高い文化事業を創出していきたい。」</p>																																																					
外部評価 評価結果	<p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている</p> <p>B: 目標を概ね達成している</p> <p>C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>	<p>総合的な意見(総評)</p> <p>令和2年度の事業評価に際しては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う全世界に及ぶパンデミックにより、予測できない異常事態が生じ、その状況下での館事業に対する外部評価であることを前提とする。したがって、あらかじめ館で設定した達成目標・達成値は、実際に事業を実施した結果を評価する指標としては使えない項目が多々あり、そのためそれらは参考値として位置付けたことを付言しておく。</p> <p>当該の令和2年度における事業の展開について、未曾有の新型コロナウイルス感染拡大に対峙し、公立の文化施設としての確かな状況判断と東京都との連携の下に、利用者・職員の安全が確保され、適切な感染防止措置が講じられていたかを検証するとともに、計画された事業に対し、可能な限り遂行するための取組がなされたか、実施結果の数値も含め評価した。</p> <p>通常の運営と大規模改修工事の準備を進める一方、2020東京オリンピック・パラリンピックへの対応も求められるなか、そこに</p>																																																					

基本方針	達成目標				成果と課題																																															
「指定管理提案書」に掲げた「6つの事業」に基づき、江戸東京博物館・江戸東京たてもの園の基本方針を以下のとおりとする。	(令和2年度における目標)				(成果、分析、評価、課題、対応)																																															
<p>1. 資料: 歴史と文化の〈継承〉</p> <p>(1) 60万点の「江戸博コレクション」を都民のかけがえのない文化遺産と位置づけ、未来へと継承すべく大切に保管する。</p> <p>(2) 分館のたてもの園では、収蔵建造物30棟について、長期保全計画及び修繕サイクルに基づく、適切な保存と計画的な修復を行う。</p> <p>(3) 東京2020大会にかかわる資料を積極的に収集することによって、その「レガシー」のアーカイブ化を促進していく。そのため資料のデータベース構築とウェブ公開を計画的に推進する。</p> <p>(4) 大規模改修について、基本設計を都と協力して進め、収蔵品の計画的な搬出を行う。</p> <p>2. 展示: 歴史と文化の〈発信〉</p> <p>(1) 常設展示を中心として、豊富な実物資料や精巧な複製・模型を活用し、またICT技術を駆使した多面的な展示解説などによって、外国人や子供・青少年をはじめとする様々な層に、江戸東京の歴史と文化の多彩な魅力を発信する。</p> <p>(2) 特別展は、江戸東京という都市史の専門博物館という当館の固有性に基づき、国内外の都市比較も視野に入れつつ、オリジナリティあふれる企画を開催する。</p> <p>(3) 分館のたてもの園では、収蔵建造物の展示のさらなる充実を主体とするほか、町並みや周辺環境の再編により、園全体での本格的な情景再現を行う。</p> <p>3. 教育: 歴史と文化の〈学舎〉</p> <p>これまでの教育普及事業を発展させていくとともに、子供・高齢者・外国人・障害者と対象を絞り、「少子高齢化」や「成熟社会」の到来など、時代の要請に応じた新たな教育普及プログラムを開発のうえ実践する。</p> <p>4. 運営: 歴史と文化の〈拠点〉</p> <p>(1) 「3S方針」(Safety:安全・安心、Service:おもてなし、Sense of Wonder:感動する博物館)を堅持するとともに、来館(園)者・資料・館スタッフの安全確保を運営の第一とする。とりわけ、テロ対策をはじめ「危機管理」については、最優先の課題として、全館・全園を挙げて取り組む。</p> <p>(2) 本館は、開館から25年が経過し、老朽化と不具合が目立つ館の管理運営にあたっては、より適切な予防保全を行い安全性確保に努める。また来るべき「大規模改修」に備え、これまで培ってきた館運営のノウハウを改修に反映させ、東京都の文化施設としてのグレードアップを推進する。</p> <p>5. 研究: 歴史と文化の〈究明〉</p> <p>(1) 江戸東京学の研究センターとして、「江戸東京の歴史と文化」をテーマとする調査研究を促進し、その成果を展示をはじめ、本館・分館のさまざまな事業に反映させ都民へ還元する。</p> <p>(2) 分館のたてもの園においては、野外収蔵建造物30棟について、包括的、かつ詳細にわたる調査研究を実施し、1棟ごとの詳細なデータベースを構築する。これに基づき、園の展示、解説、公式図録などに反映させ、ウェブサイトをはじめ公開を促進する。</p> <p>6. 交流: 歴史と文化の〈展開〉</p> <p>(1) 18年間にわたり築いてきた北京首都博物館・ソウル歴史博物館・瀋陽故宮博物院との国際交流を実施するほか、欧米の主要博物館・美術館との連携もこれまで以上に深め、とりわけ、東京都の友好都市の博物館などは、「都市交流展」を実施する。</p> <p>(2) 「全国歴史民俗系博物館協議会」の連携を事務局館として推進するほか、両国・深川地域ネットワーク(本館)、多摩地域ネットワーク(分館)を高め、街づくりの活性化や各施設の回遊性を高める取り組みも行う。</p> <p>(3) 当財団のスケールメリットを大いに生かし、収蔵品の相互活用、演奏やパフォーマンスの活動場所の相互提供、共通の広報宣伝などにより、東京都の文化施設としてのプレゼンスに取り組む。また、その一環として財団各施設が使用できる共通の展示室および収蔵施設を新設する検討を行う。</p>	<p>①資料</p> <p>●長期保全計画に則り、計画的、予防的な修繕を遂行する。また、復元建造物の緊急修繕工事や日常の軽微な補修等を確実に遂行し、来園者の安全確保と文化財の保存管理を図る。</p> <p>●旧武蔵野郷土館所蔵資料の保存管理体制の強化を図る。また、将来に向けた資料収蔵環境の整備について検討する。</p> <p>●虫菌害、獣害などから復元建造物や収蔵資料を保護するため監視を行い、燻蒸やクリーニング等、状況に応じた対策を図る。</p> <p>②展示</p> <p>●復元建造物の展示では、室内の建具や演習具を季節ごとに展示替するなど、季節感の演出に努め、体感性の向上に努める。また、展示解説の多言語対応を推進する。</p> <p>●特別展示では、東京2020大会開催に合わせ、来日外国人に対応した話題性や専門性の高いテーマを設定すると共に、旧武蔵野郷土館資料の公開を継続し、園のミッションを幅広く発信していく。</p> <p>●情景再現事業は、学芸員の綿密な調査研究に基づき、建物の使われ方や住まい方、風俗等を体感できるよう改善を重ね、園の特色を十分に活かし事業の魅力を高める。</p> <p>③教育</p> <p>●園の代表的な教育普及事業である「昔くらし体験」を確実に遂行すると共に、これを外国人、障害者、家族・小グループ等の来園者属性に合わせアレンジした事業の定着を図る。そのための環境整備を検討する。</p> <p>●ボランティアへ日常的な指導、教育を行なうほか、専門研修、接遇研修、語学研修などを実施し能力向上を図る。また、新規募集等により多言語対応の増強を図る。</p> <p>④運営</p> <p>●「危機管理」を最優先の課題とし、危機が発生する要因とその対策を想定し、職員や警備、監視、受付案内、設備管理要員等が常時対応できる体制を組むとともに設備を整える。</p> <p>●園内施設のサイン、案内表示類の多言語化、バリアフリー化を推進し、来園者のホスピタリティの向上を図る。</p> <p>●業務を推進するにあたって、常に顧客ニーズの把握に努めるとともに外部評価を受けとめ、適宜改善を図る。</p> <p>⑤交流</p> <p>●小金井市をはじめとする関連諸団体と連携し、事業の実施及び広報の相互協力により、発信力の強化を図る。</p> <p>●ボランティアや友の会などに様々な活動の場を提供することによって、都民の文化活動の促進に寄与する。</p> <p>●多摩地域唯一の都立文化施設として、地域の博物館をはじめ広く国内外の野外博物館と交流し、地域の活性化に寄与する。また、財団のスケールメリットを活かした事業等を実施し、オリンピック・パラリンピックムーブメントの一翼を担う。</p>	<p>●計画に則り小出邸の劣化改修・耐震補強工事と4棟の劣化改修工事の実実施設計を完了することができた。また、21棟の軽微な修繕を行うことができた。</p> <p>●感染症流行下、予定していた収蔵環境整備にかかわる外部調査は見送ったが、収集資料の現品棚卸作業を行うとともに、収蔵庫の空調機器改修など環境整備を行った。</p> <p>●保存対象が屋外に立地する建造物であることを考慮しつつ、IPM(総合的有害生物管理)の観点から保存管理を実践できた。</p> <p>●感染症流行拡大により、約半年間の休園となったが、農家での年中行事復元や燻煙、商家の陳列、住戸の建具交換など、季節感のある展示を継続。SNSでの発信などで博物館活動を維持した。</p> <p>●「大銭湯展」が五輪大会期間中の開催を意図していたため、大会の延期に伴い展示替や展示構成を見直して会期の延長を図り、昨年に引き続きメディアでも取り上げられた。また施工壁面を撤去し、空気を循環させるなど感染防止に努めた。</p> <p>●情景再現事業は、休園により「たてもの紅葉のライトアップ」のみの実施となった。感染症防汚施策としてワークショップ系の事業は中止したが、事故なくご好評の声を多数いただけた。</p> <p>●緊急事態に伴う在宅勤務時に職員が創案したアイデアをもとに各種の教育普及ツールを開発し、公式HP上に特設ページ「えらべる まなべる えどまる広場」を開設、学校団体の事前学習やリモート学習に資することができた。</p> <p>●ボランティア活動は来園者との接触の頻度が高く、メンバーが高齢化していることもあり、昨年度より継続して活動を休止した。どのように再開させるのが課題である。</p> <p>●今年度は感染症対策に最重点を置き、来園時の検温、マスク着用、社会的距離の確保などに注力したため、園内での感染者の発生を防ぐことができた。また園内各所の管理を行ったが、特に植栽管理ではナラ枯れ病の被害が深刻であったため、都と協議し速やかに伐採の対応が行えた。</p> <p>●外国語の案内文や解説類の修正を適宜すすめた。建造物で唯一バリアフリーとなっていない「子宝湯」については都と協議の上実施設計を行い、次年度の工事に備えた。</p> <p>●感染症対策として、再開園時には建物内部の公開を見送ったが、一方通行導線を作り内部公開を再開させるなど、来園者のニーズに応えながら安全確保を図った。</p> <p>●近隣団体と情報共有しながら感染症防止策を講じた。「たてもの紅葉のライトアップ」においては市の商工会には出店、観光街おこし協会には前売券販売などの協力を仰ぎ事業を遂行した。</p> <p>●ボランティアは活動停止したが、開園期間中、友の会への支援は継続した。</p> <p>●多摩博物館連絡協議会をはじめ各種機関と感染症流行下での施設運営について情報交換した。</p>																																																		
<p>5. 研究: 歴史と文化の〈究明〉</p> <p>(1) 江戸東京学の研究センターとして、「江戸東京の歴史と文化」をテーマとする調査研究を促進し、その成果を展示をはじめ、本館・分館のさまざまな事業に反映させ都民へ還元する。</p> <p>(2) 分館のたてもの園においては、野外収蔵建造物30棟について、包括的、かつ詳細にわたる調査研究を実施し、1棟ごとの詳細なデータベースを構築する。これに基づき、園の展示、解説、公式図録などに反映させ、ウェブサイトをはじめ公開を促進する。</p> <p>6. 交流: 歴史と文化の〈展開〉</p> <p>(1) 18年間にわたり築いてきた北京首都博物館・ソウル歴史博物館・瀋陽故宮博物院との国際交流を実施するほか、欧米の主要博物館・美術館との連携もこれまで以上に深め、とりわけ、東京都の友好都市の博物館などは、「都市交流展」を実施する。</p> <p>(2) 「全国歴史民俗系博物館協議会」の連携を事務局館として推進するほか、両国・深川地域ネットワーク(本館)、多摩地域ネットワーク(分館)を高め、街づくりの活性化や各施設の回遊性を高める取り組みも行う。</p> <p>(3) 当財団のスケールメリットを大いに生かし、収蔵品の相互活用、演奏やパフォーマンスの活動場所の相互提供、共通の広報宣伝などにより、東京都の文化施設としてのプレゼンスに取り組む。また、その一環として財団各施設が使用できる共通の展示室および収蔵施設を新設する検討を行う。</p>	<p>①資料</p> <p>●長期保全計画に則り、計画的、予防的な修繕を遂行する。また、復元建造物の緊急修繕工事や日常の軽微な補修等を確実に遂行し、来園者の安全確保と文化財の保存管理を図る。</p> <p>●旧武蔵野郷土館所蔵資料の保存管理体制の強化を図る。また、将来に向けた資料収蔵環境の整備について検討する。</p> <p>●虫菌害、獣害などから復元建造物や収蔵資料を保護するため監視を行い、燻蒸やクリーニング等、状況に応じた対策を図る。</p> <p>②展示</p> <p>●復元建造物の展示では、室内の建具や演習具を季節ごとに展示替するなど、季節感の演出に努め、体感性の向上に努める。また、展示解説の多言語対応を推進する。</p> <p>●特別展示では、東京2020大会開催に合わせ、来日外国人に対応した話題性や専門性の高いテーマを設定すると共に、旧武蔵野郷土館資料の公開を継続し、園のミッションを幅広く発信していく。</p> <p>●情景再現事業は、学芸員の綿密な調査研究に基づき、建物の使われ方や住まい方、風俗等を体感できるよう改善を重ね、園の特色を十分に活かし事業の魅力を高める。</p> <p>③教育</p> <p>●園の代表的な教育普及事業である「昔くらし体験」を確実に遂行すると共に、これを外国人、障害者、家族・小グループ等の来園者属性に合わせアレンジした事業の定着を図る。そのための環境整備を検討する。</p> <p>●ボランティアへ日常的な指導、教育を行なうほか、専門研修、接遇研修、語学研修などを実施し能力向上を図る。また、新規募集等により多言語対応の増強を図る。</p> <p>④運営</p> <p>●「危機管理」を最優先の課題とし、危機が発生する要因とその対策を想定し、職員や警備、監視、受付案内、設備管理要員等が常時対応できる体制を組むとともに設備を整える。</p> <p>●園内施設のサイン、案内表示類の多言語化、バリアフリー化を推進し、来園者のホスピタリティの向上を図る。</p> <p>●業務を推進するにあたって、常に顧客ニーズの把握に努めるとともに外部評価を受けとめ、適宜改善を図る。</p> <p>⑤交流</p> <p>●小金井市をはじめとする関連諸団体と連携し、事業の実施及び広報の相互協力により、発信力の強化を図る。</p> <p>●ボランティアや友の会などに様々な活動の場を提供することによって、都民の文化活動の促進に寄与する。</p> <p>●多摩地域唯一の都立文化施設として、地域の博物館をはじめ広く国内外の野外博物館と交流し、地域の活性化に寄与する。また、財団のスケールメリットを活かした事業等を実施し、オリンピック・パラリンピックムーブメントの一翼を担う。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量目標】</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>H31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> <th>(成果、分析、評価、課題、対応)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観覧者数(人)</td> <td>252,476</td> <td>256,202</td> <td>229,663</td> <td>250,000</td> <td>100,711</td> <td>* 下欄「総合的な所見(自己評価の総評)」のとおり。</td> </tr> <tr> <td>自主事業の参加者数(人)</td> <td>8,732</td> <td>8,329</td> <td>5,455</td> <td>3,000</td> <td>0</td> <td>事業中止</td> </tr> <tr> <td>≪事業実績値≫</td> <td>H29年度実績</td> <td>H30年度実績</td> <td>H31年度実績</td> <td>R2年度目標値</td> <td>R2年度達成値</td> <td>(成果、分析、評価、課題、対応)</td> </tr> <tr> <td>HPアクセス件数</td> <td>5,526,815.0</td> <td>8,523,965.0</td> <td>8,664,415</td> <td></td> <td>5,445,045</td> <td>休園に伴う需要の減</td> </tr> <tr> <td>情景再現事業(8事業及び伝統工芸の実演)の入園者数・参加者数(人)</td> <td>61,960</td> <td>92,229</td> <td>64,977</td> <td></td> <td>18,945</td> <td>休園に伴う減(情景再現事業:5回→1回、伝統工芸の実演12回→6回)</td> </tr> <tr> <td>昔暮らし体験参加者数(人)</td> <td>3,606</td> <td>3,155</td> <td>2,985</td> <td></td> <td>654</td> <td>休園及びプログラム変更に伴う減(実施月:6か月→2か月、実施日:週4回→週1回)</td> </tr> </tbody> </table>	【定量目標】	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	(成果、分析、評価、課題、対応)	観覧者数(人)	252,476	256,202	229,663	250,000	100,711	* 下欄「総合的な所見(自己評価の総評)」のとおり。	自主事業の参加者数(人)	8,732	8,329	5,455	3,000	0	事業中止	≪事業実績値≫	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	(成果、分析、評価、課題、対応)	HPアクセス件数	5,526,815.0	8,523,965.0	8,664,415		5,445,045	休園に伴う需要の減	情景再現事業(8事業及び伝統工芸の実演)の入園者数・参加者数(人)	61,960	92,229	64,977		18,945	休園に伴う減(情景再現事業:5回→1回、伝統工芸の実演12回→6回)	昔暮らし体験参加者数(人)	3,606	3,155	2,985		654	休園及びプログラム変更に伴う減(実施月:6か月→2か月、実施日:週4回→週1回)	<p>(成果、分析、評価、課題、対応)</p> <p>* 下欄「総合的な所見(自己評価の総評)」のとおり。</p> <p>事業中止</p> <p>(成果、分析、評価、課題、対応)</p> <p>休園に伴う需要の減</p> <p>休園に伴う減(情景再現事業:5回→1回、伝統工芸の実演12回→6回)</p> <p>休園及びプログラム変更に伴う減(実施月:6か月→2か月、実施日:週4回→週1回)</p>
【定量目標】	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	(成果、分析、評価、課題、対応)																																														
観覧者数(人)	252,476	256,202	229,663	250,000	100,711	* 下欄「総合的な所見(自己評価の総評)」のとおり。																																														
自主事業の参加者数(人)	8,732	8,329	5,455	3,000	0	事業中止																																														
≪事業実績値≫	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	(成果、分析、評価、課題、対応)																																														
HPアクセス件数	5,526,815.0	8,523,965.0	8,664,415		5,445,045	休園に伴う需要の減																																														
情景再現事業(8事業及び伝統工芸の実演)の入園者数・参加者数(人)	61,960	92,229	64,977		18,945	休園に伴う減(情景再現事業:5回→1回、伝統工芸の実演12回→6回)																																														
昔暮らし体験参加者数(人)	3,606	3,155	2,985		654	休園及びプログラム変更に伴う減(実施月:6か月→2か月、実施日:週4回→週1回)																																														
総合的な所見(自己評価の総評)																																																				
	令和2年度は、前年度から引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業計画の大半に変更をきたした。東京都の指示により、2月29日から6月1日まで臨時休園の措置をとり、さらに12月25日から年度末まで再び同様の措置とした。したがって開園期間は約半年となったが、検温の実施、マスク着用の依頼、社会的距離の確保、巡回の強化などの各種対策を実施するとともに、公式ホームページやSNSを駆使して積極的に情報を発信。結果として、計10万771人の来園者を安全に迎えることができた。				教育普及事業は、ボランティア活動の休止にともない、学芸員が小学校向けの「昔くらし体験」を見学型のプログラムとして実施した。自宅勤務を実施するなか、事務系を含む全職員にインターネット上に公開する教育プログラムのアイデアを募集。それらを加工し、公式ホームページ上に「えらべる 学べる えどまる広場」という名称で公開し、リモート学習の需要に応えた。文化庁と共催の高齢者向け事業では、今後の博物館事業の可能性を見出すことができた。																																															
<p>A</p>	総合的な意見(総評)																																																			
<p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている</p> <p>B: 目標を概ね達成している</p> <p>C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>	オリパラ開催と外国人利用者対応を目標に据えた年度に、全く想定外のコロナ禍が襲い、限定的な博物館活動にならざるを得ない状況であったなか、最大限の施設・資料保全と利用者サービスを行うことができたことを大きく評価したい。																																																			
	園・都の方針と整合性を図りながらの運営にも苦慮された様子であったが、歴史的建造物を保存し、適切に維持して次代に受け継ぐための修理やその計画策定という基本的かつ重要な業務は地道に行われた。SNS等を駆使し、感染症対策を図りながら特別展を実施し、多くの来園者を安全に迎えられていた。しかし、ボランティア活動の休止等による園のコミュニティ事業の空白の影響は残念である。その一方で、オンラインコンテンツの「えどまる広場」の充実も、体験授業や校外行事が制約された子どもたちの学びの場を提供する意義を持ち、教育普及における園の新たな可能性を開いた。																																																			

令和2年度 目標達成シート

基本方針	達成目標						成果と課題																																								
	(令和2年度における目標)						(成果、分析、評価、課題、対応)																																								
<p>1 世界有数の写真・映像コレクションの構築と、世界への発信</p> <p>世界の関係機関との信頼関係を築き、海外への企画展・収蔵展の巡回や共同企画等を促し、世界に向けて日本の写真・映像の魅力を伝え、相互交流を活発化させる。 所蔵作品の画像WEB公開等の取組を強化するとともに、複数言語対応や海外メディア・ネットワークを広げるなど、国際発信力を高める。</p> <p>2 写真・映像の可能性に挑戦する新進作家の支援</p> <p>日本の次世代を代表する旬な作家の個展や新進作家展を、持続可能な文化的事業に位置づけ、連続的に開催することによって、長期的な遺産となるよう展開する。</p> <p>3 来館者に常に感動を与える美術館</p> <p>世界的に活躍しているアーティストの展覧会や19世紀の初期写真、世界が直面するテーマに関する国際展などを開催することにより、優れた写真・映像の鑑賞機会を提供する。 また、1Fホールにおいては、写真・映像の専門美術館ならではの映画館として、ラインナップを磨き更なる魅力を高める。</p> <p>4 来館者の立場に立った開かれた美術館</p> <p>多様な来館者に対応し、施設のバリアフリーやサイン等の多言語化を図るとともに、展示解説の充実に向けていく。 また、スクール・プログラムやボランティアとの協働、より多彩で魅力的なワークショップの提供により、美術への親しみを醸成する。 さらに、支援会員制度による企業・団体との繋がりを経営に活かしていくなど、地域社会とも連携した運営を推進していく。</p> <p>5 過去と現在、先端技術と芸術文化が融合する、領域横断的なフェスティバルの実施</p> <p>「恵比寿映像祭」を先端技術と芸術文化が融合する、領域横断的なフェスティバルとして、国際発信力に磨きをかけるとともに、国内外の先端的なアーティストの招聘、領域を横断した作品や過去の名作を取り上げるなどにより、優れた映像表現を継承し、異なるジャンルの対話を促す場としていく。 映像祭を核としながら、地域ギャラリーとの連携や同時期に開催される映像フェスティバルとの連携を進め、映像アートの祭典を牽引していく。</p> <p>6 未来に向けた文化の継承</p> <p>計画的な収集や保存科学に基づく最適な作品管理により、都民の貴重な財産である作品・資料を次世代に継承する。また都民の調査・研究ニーズに対応するため、図書室の写真・映像に関する資料の充実に向けていく。</p>	定性目標	<p>(1) 展覧会・作品資料収集事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○綿密な調査研究に基づき、質の高い展覧会を開催する。充実した収蔵品を活用するとともに、国内外の著名作家の個展や著名キュレーターと協力した展覧会を実施する。 ○収集方針に基づき、国内外の芸術性の高い作品や、写真史上、重要な作品を収集するとともに、新進作家展など当館で開催した展覧会の作品の収集を進める。 	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止の休館に伴い、20本の展覧会を14本に変更し開催した。重点収集作家個展や初期写真など、調査研究に基づく質の高い展覧会を実施するとともに、鑑賞機会を充実させるため、展覧会紹介動画や、対面イベント中止のため講演会動画の配信など、新たな日常に対応したコンテンツを発信した(展覧会関連コンテンツ33本、リアルタイム配信13本)。 ○厳選した質の高い作品、歴史的に貴重な作品383点を収蔵するとともに適切な保存、管理を進めた。</p>																																												
<p>(2) 教育普及事業・人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校教育機関や写真関係団体、地域等と連携し、体験型や鑑賞型の各種プログラム事業を実施する。 また、障害者に対するバリアフリーやアクセシビリティ向上の観点から、障害者向けプログラムの充実を進める。 ○文化を担う人材育成の場として、インターンや学芸員実習生の受入を積極的に推進する。 		<p>○コロナ禍により当初予定のプログラムをオンラインや自宅で体験できるプログラムを中心に転換し、ワークショップ309人、スクールプログラム651人が参加した。 ○「障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ・オンライン版」を実施した。 ○インターン2名の通年受け入れ、対面とオンラインを活用し、博物館実習生7名を受け入れた。</p>																																													
<p>(3) 館運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東京2020大会に対応し、TTF事業を推進するとともに、外国人来館者に対応したサイン等の多言語化、さらには、テロ対策を確実に実施する。 また、ヘビーユーザーからライトユーザーまで多様な来館者に対する満足度の向上を図るため、展覧会等の開設やキャプションの工夫をより一層進める。 		<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入館者に対し検温、消毒、ソーシャルディスタンス確保を徹底するとともに、図書室の定員制を実施した。恵比寿映像祭については事前申し込み制を導入したほか、YEBIZO MEETS事業やトークのオンライン配信で参加者のすそ野を広げた。 ○多言語による解説文の設置、イングリッシュ・ギャラリートークのオンライン配信など、外国人利用促進を進めた。</p>																																													
<p>(4) 広報等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○SNSやメディア、駅貼り広告等を戦略的に活用するとともに、蓄積したメディアネットワークを通じてより一層露出を増やすなど、広報活動の充実・強化を図る。 ○インターネット上の当館の顔となるホームページのトップページについて、利便性を確保しながら、デザイン性の向上を図る。 		<p>○館内の密集を避けるため、誘客のための大規模広報については休止したが、再開時に安全に館内を利用いただくための注意喚起や、館内サインを強化し、利用者の安全につとめた。 ○ホームページのトップページのデザイン性を向上させ、自宅に居ながらにして当館の事業を楽しめる各種コンテンツを配信するなど、利便性を高めた。</p>																																													
<p>5 過去と現在、先端技術と芸術文化が融合する、領域横断的なフェスティバルの実施</p> <p>「恵比寿映像祭」を先端技術と芸術文化が融合する、領域横断的なフェスティバルとして、国際発信力に磨きをかけるとともに、国内外の先端的なアーティストの招聘、領域を横断した作品や過去の名作を取り上げるなどにより、優れた映像表現を継承し、異なるジャンルの対話を促す場としていく。 映像祭を核としながら、地域ギャラリーとの連携や同時期に開催される映像フェスティバルとの連携を進め、映像アートの祭典を牽引していく。</p>	定量目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量目標】</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>H31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観覧者数(人)</td> <td>384,093 (380,000)</td> <td>334,799 (380,000)</td> <td>360,607 (380,000)</td> <td>380,000</td> <td>158,338</td> </tr> <tr> <td>自主事業入場者数(人) (※展覧会入場者数を除く)</td> <td>39,230 (35,000)</td> <td>38,747 (36,000)</td> <td>39,431 (36,000)</td> <td>36,000</td> <td>4,696</td> </tr> <tr> <td>図書室利用者数(人)</td> <td>27,609 (30,000)</td> <td>28,015 (30,000)</td> <td>25,475 (30,000)</td> <td rowspan="5" style="text-align: center;">/</td> <td>1,966</td> </tr> <tr> <td>支援会員法人数(法人)</td> <td>258</td> <td>252</td> <td>244</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>HPアクセス件数</td> <td>5,471,106</td> <td>6,071,603</td> <td>5,348,987</td> <td>2,912,787</td> </tr> <tr> <td>付帯事業収入(千円)</td> <td>18,935</td> <td>8,540</td> <td>6,986</td> <td>5,584</td> </tr> <tr> <td>付帯事業収入(千円)</td> <td>18,935</td> <td>8,540</td> <td>6,986</td> <td>5,584</td> </tr> </tbody> </table>	【定量目標】	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	観覧者数(人)	384,093 (380,000)	334,799 (380,000)	360,607 (380,000)	380,000	158,338	自主事業入場者数(人) (※展覧会入場者数を除く)	39,230 (35,000)	38,747 (36,000)	39,431 (36,000)	36,000	4,696	図書室利用者数(人)	27,609 (30,000)	28,015 (30,000)	25,475 (30,000)	/	1,966	支援会員法人数(法人)	258	252	244	230	HPアクセス件数	5,471,106	6,071,603	5,348,987	2,912,787	付帯事業収入(千円)	18,935	8,540	6,986	5,584	付帯事業収入(千円)	18,935	8,540	6,986	5,584	<p>(成果、分析、評価、課題、対応)</p>
【定量目標】		H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																									
観覧者数(人)		384,093 (380,000)	334,799 (380,000)	360,607 (380,000)	380,000	158,338																																									
自主事業入場者数(人) (※展覧会入場者数を除く)		39,230 (35,000)	38,747 (36,000)	39,431 (36,000)	36,000	4,696																																									
図書室利用者数(人)		27,609 (30,000)	28,015 (30,000)	25,475 (30,000)	/	1,966																																									
支援会員法人数(法人)	258	252	244	230																																											
HPアクセス件数	5,471,106	6,071,603	5,348,987	2,912,787																																											
付帯事業収入(千円)	18,935	8,540	6,986	5,584																																											
付帯事業収入(千円)	18,935	8,540	6,986	5,584																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>観覧者数(人)</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>H31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>384,093 (380,000)</td> <td>334,799 (380,000)</td> <td>360,607 (380,000)</td> <td>380,000</td> <td>158,338</td> </tr> </tbody> </table>	観覧者数(人)	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	384,093 (380,000)	334,799 (380,000)	360,607 (380,000)	380,000	158,338	<p>新型コロナウイルス感染症のため6月1日まで休館。展覧会・プレス内覧会・ギャラリートーク・講演会など多数の事業において中止・規模縮小が生じた。</p>																																			
観覧者数(人)	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																										
384,093 (380,000)	334,799 (380,000)	360,607 (380,000)	380,000	158,338																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>自主事業入場者数(人) (※展覧会入場者数を除く)</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>H31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39,230 (35,000)</td> <td>38,747 (36,000)</td> <td>39,431 (36,000)</td> <td>36,000</td> <td>4,696</td> </tr> </tbody> </table>	自主事業入場者数(人) (※展覧会入場者数を除く)	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	39,230 (35,000)	38,747 (36,000)	39,431 (36,000)	36,000	4,696	<p>対面による事業は、休止もしくは定員を半減にし、感染症拡大防止に配慮して実施した。</p>																																			
自主事業入場者数(人) (※展覧会入場者数を除く)	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																										
39,230 (35,000)	38,747 (36,000)	39,431 (36,000)	36,000	4,696																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>図書室利用者数(人)</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>H31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27,609 (30,000)</td> <td>28,015 (30,000)</td> <td>25,475 (30,000)</td> <td rowspan="5" style="text-align: center;">/</td> <td>1,966</td> </tr> <tr> <td>支援会員法人数(法人)</td> <td>258</td> <td>252</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>HPアクセス件数</td> <td>5,471,106</td> <td>6,071,603</td> <td>5,348,987</td> <td>2,912,787</td> </tr> <tr> <td>付帯事業収入(千円)</td> <td>18,935</td> <td>8,540</td> <td>6,986</td> <td>5,584</td> </tr> <tr> <td>付帯事業収入(千円)</td> <td>18,935</td> <td>8,540</td> <td>6,986</td> <td>5,584</td> </tr> </tbody> </table>	図書室利用者数(人)	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	27,609 (30,000)	28,015 (30,000)	25,475 (30,000)	/	1,966	支援会員法人数(法人)	258	252	230	HPアクセス件数	5,471,106	6,071,603	5,348,987	2,912,787	付帯事業収入(千円)	18,935	8,540	6,986	5,584	付帯事業収入(千円)	18,935	8,540	6,986	5,584	<p>予約制、定員制、2時間入替制、図書資料の一定期間の隔離など、感染拡大防止の対策を講じた上で安全かつ早期に開室し、利用者の利便性を図った。</p>																
図書室利用者数(人)	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																										
27,609 (30,000)	28,015 (30,000)	25,475 (30,000)	/	1,966																																											
支援会員法人数(法人)	258	252		230																																											
HPアクセス件数	5,471,106	6,071,603		5,348,987	2,912,787																																										
付帯事業収入(千円)	18,935	8,540		6,986	5,584																																										
付帯事業収入(千円)	18,935	8,540		6,986	5,584																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>支援会員法人数(法人)</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>H31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>258</td> <td>252</td> <td>244</td> <td>230</td> <td>4,696</td> </tr> </tbody> </table>	支援会員法人数(法人)	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	258	252	244	230	4,696	<p>経済の先行き感などから会員の退会防止に努力したが、会員数は減少した。</p>																																			
支援会員法人数(法人)	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																										
258	252	244	230	4,696																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>HPアクセス件数</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>H31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,471,106</td> <td>6,071,603</td> <td>5,348,987</td> <td>2,912,787</td> <td>5,584</td> </tr> </tbody> </table>	HPアクセス件数	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	5,471,106	6,071,603	5,348,987	2,912,787	5,584	<p>昨年度入場者数に対するアクセス件数とほぼ同比率であり、入場者数とともにアクセス数は減少した。</p>																																			
HPアクセス件数	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																										
5,471,106	6,071,603	5,348,987	2,912,787	5,584																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>付帯事業収入(千円)</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>H31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18,935</td> <td>8,540</td> <td>6,986</td> <td>5,584</td> <td>1,966</td> </tr> </tbody> </table>	付帯事業収入(千円)	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	18,935	8,540	6,986	5,584	1,966	<p>臨時休館及び夜間開館の中止による観覧者の減員により、全体の付帯事業収入を押し下げる結果となった。</p>																																			
付帯事業収入(千円)	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																										
18,935	8,540	6,986	5,584	1,966																																											
<p>6 未来に向けた文化の継承</p> <p>計画的な収集や保存科学に基づく最適な作品管理により、都民の貴重な財産である作品・資料を次世代に継承する。また都民の調査・研究ニーズに対応するため、図書室の写真・映像に関する資料の充実に向けていく。</p>	<p>総合的な所見(自己評価の総評)</p> <p>○令和2年度の運営コンセプトを「賑わいのある美術館づくり」として、展覧会や上映に加え、ギャラリートーク、シンポジウム等をより一層充実させるとともに、SNSの活用や館内外でのイベント開催など幅広く広報を展開することにより当館の魅力を多くの方に訴求する取組を準備してきた。 ○しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和2年2月29日から6月1日まで臨時休館となり、未曾有の状況の中、感染症予防を万全に期したうえで6月2日から開館するとともに、在宅時間の長い新たな生活様式に対応する取組を導入するなど、来館・非来館者のいずれも写真・映像の魅力を楽しめる工夫を凝らしながら事業を実施してきた。 ○重点収集作家個展や、3万6千点を超える当館コレクションを活用した収蔵展、多様な切り口で話題性のある企画展など、関係団体や企業、出品作家の協力のもと、会期や展示内容の変更を図りながら、14の展覧会を開催した。作家や作品理解を深めるためのギャラリートークなど対面型イベントに替え、作家や担当学芸員によるオンライン動画配信を行い、自宅に居ながらにして写真・映像文化の魅力に触れる機会を提供した。映像祭は規模を縮小しつつ、地域のギャラリーや他フェスティバルと引き続き連携し、展示や上映を実施するとともにトークやシンポジウムをオンライン開催に変更した。開催した展覧会により、エキソニモが令和2年度芸術選奨文部科学大臣賞新人賞、瀬戸正人が東川賞国内作家賞、岩根愛が東川賞新人作家賞をそれぞれ受賞した。 ○教育普及事業では、規模縮小での開催の一方で、オンラインを活用し「おうちでワークショップ」を展開、「青写真」「おどろき盤」を題材に、新たに在宅でも制作できる事業として実施した。</p>																																														
<p>外部評価 評定結果</p>	<p>総合的な意見(総評)</p>																																														
<p>A</p> <p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている B: 目標を概ね達成している C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員、スタッフ、来館者に対して各種の新型コロナ感染防止対策が徹底され、館内における感染者の発生がなかった。 ●SNSによるターゲティング広告が戦略的に行われた。効果を精査し、今後の方針を柔軟に立ててほしい。 ●コロナ禍により展覧会自体の休止や中止が相次ぐ逆境のなか、オンラインで多様かつ数多くのプログラムを編成してアップロードするなど、擬似的な形ではあれ、新たな来館者を獲得しようとする取り組みに懸命であったことが理解できる。 ●「生誕100年 石元泰博写真展 伝統と近代」は他の美術館、ギャラリー2館と共同で行った意欲的な試みで、日頃から地道に行われている研究、収集が結実した存在感ある展示だった。 ●「エキソニモ アン・デッド・リンク」は、ネット空間の会場とリアルな展示が連動し、新感覚の鑑賞体験が提示された。 ●恵比寿映像祭は、写真美術館にとって毎年冬の恒例行事となっている。普段あまり見る機会がない映像作品を一堂に見ることができ貴重な機会となっており、そのことが安定した集客数につながっていると思う。国内外のフェスティバルや機関と連携し、複数のリンク・プログラムを活用した結果、多数のプログラムが満員を記録した。トークイベントやシンポジウムをネットでライブ配信したことで、海外組織とのネットワーク形成がさらに推進された。 ●新型コロナウイルス対策のため、従来は対面で行っていた教育プログラムの内容を改編してオンラインで実施した。プログラムの実施数は減少したものの、コロナ収束後も、様々な事情で来館できない受講希望者向けのプログラムとして活用できるフォーマットが構築された。 																																														

令和2年度 目標達成シート

基本方針	達成目標						成果と課題																																										
	(令和2年度における目標)						(成果、分析、評価、課題、対応)																																										
<p data-bbox="201 359 774 415">文化の創造と魅力あるメッセージの発信</p> <p data-bbox="201 447 774 600">①現代美術の国内外への発信 ②現代美術の保存と継承 ③変容する価値観への対応</p> <p data-bbox="201 684 774 741">現代美術の普及と次世代の担い手を育む</p> <p data-bbox="201 793 774 940">④優れた作品等の鑑賞機会の提供 ⑤現代美術の普及と子供たちの育成 ⑥新進・若手芸術家への支援と創造拠点化</p>	<p data-bbox="834 254 2000 394"> 〈文化の創造と魅力あるメッセージの発信〉 現代美術を中心に、ファッション・デザイン・パフォーマンス・建築まで幅広いジャンルにわたる同時代の優れた創造活動を、独自の調査研究をもとに考察し、国内外に発信を行う。今年は夏のオリンピック時期に「石岡瑛子展」「おさなごころを、きみに」「MOTサテライト」等により、日本独自の優れた美術やデザインの成果を、アートファンのみならず、この時期に東京を訪れる観光客にも積極的に紹介していく。それに続く、秋・春の展覧会においても当館ならではのオリジナリティある企画により現代美術館の存在意義と今後の方向性を国内外に広くアピールする。 </p> <p data-bbox="834 436 2000 577"> 〈収蔵作品の収集管理と活用〉 当館所蔵の約5,400点に及ぶ多彩なコレクションを活用し、常設展(MOTコレクション展)の実施を通して現代美術の成り立ちや魅力を紹介する。展示構成に当たっては、「現代美術館へ行けばこれが観られる」といった当館ならではの収蔵作品を積極的に活用するとともに、購入や寄贈等により新規に収蔵した作品の公開を通して、当館の作品収集活動についての理解と協力を促す。 </p> <p data-bbox="834 598 2000 718"> 〈現代美術の普及と次世代の担い手を育む〉 学校対応のスクールプログラムとして、小・中・高等学校及び特別支援学校を対象に「学校団体鑑賞の受け入れ」「アーティストの1日学校訪問」「教員研修会」「授業用教材の貸し出し」を実施する。また、鑑賞者の裾野を広げる事業として、あらゆる鑑賞者を対象に、展覧会や作家、美術館の建物の活用、区民祭りなど地域のイベントと連動したプログラム(「ギャラリークルーズ」「ワークショップ」「MOT美術館講座」等)を展開する。 </p> <p data-bbox="834 739 2000 858"> 〈若手作家の支援と育成〉 優れた若き才能を発掘するために丁寧な調査とネットワークの充実を図る。その成果として、特に「MOTアニュアル」「MOTサテライト」「おさなごころを、きみに」「アトリウム・プロジェクト」では、新進・若手芸術家を積極的に取り上げ、多様な創造活動の場や作品発表の機会を提供することで、作家たちを育成・支援する。さらには若い世代の優れた作品を収集するなどの多角的な取り組みにより、総合的に次世代を担う作家たちの支援を行う。 </p> <p data-bbox="834 879 2000 1020"> 〈あらゆる鑑賞者に開かれた美術館の実現〉 ・東京2020大会の開催にあたり、バリアフリー及び多言語化への対応、セキュリティ強化等、来館者の安全を確保する。 ・多彩な広報手段を用いての広報活動、リニューアル後のブランドイメージの推進に継続して取り組む。(HP、Twitterやブログ等のツールを活用した情報発信) ・来館者へのホスピタリティ向上と地域連携(レストラン、カフェ、ミュージアムショップの充実、施設の有効活用 等) </p>	<p data-bbox="2059 254 2804 394">現代美術ファンおよび、文化的刺激やコロナ禍の日常から離れて癒しを求める層等に対し環境、社会問題、ファッション、テクノロジー等、多様な切り口の現代美術を享受する場を創出でき、現代美術館としての存在意義をアピールできた。オリハラは延期になったが、長年の調査研究・準備を経て多分野を横断する企画を実現でき、一般来館者、専門分野双方から高い評価を得た。「石岡瑛子」展は令和2年度美術館連絡協議会特別賞受賞。</p> <p data-bbox="2059 415 2804 577">MOTコレクション展として、毎回200点前後の作品を展示し、今年度は戦前から現在までの幅広い現代美術の表現と流れを紹介した。当館を代表する国内外の作品や、改修休館中に収集した新収蔵品も公開し、現在進行形の美術館の根幹を成す活動についての理解を促すことができた。</p> <p data-bbox="2059 598 2804 718">またコロナ禍において数々の展覧会が延期になる中、28件、121点の作品を国内外に貸し出すなど、他館の活動への協力も継続して行い、また同時に作品保全のための修復も弛まず行うことで、非常時にあっても安定的な収蔵作品の管理・活用に着実に取り組むことができた。</p> <p data-bbox="2059 739 2804 858">今年度は新型コロナウイルスの影響により、ほぼ全ての事業で当初予定の変更を余儀なくされた。しかしながら、感染予防対策を講じながら対面を伴わない工夫を施した上で、学校対応、MOT美術館講座、ワークショップ、ギャラリークルーズを実施し、インターネットの活用や手紙や写真を用いたリモートプログラムの開発などこれまでにない形式の事業を工夫し実施することで、今後の新たな展開の基礎を築くことができた。</p> <p data-bbox="2059 879 2804 1020">「MOTアニュアル」「MOTサテライト」で国内外の若手作家の活動の場を創出することができた。作品発表に加え、オンライントークを実施し、国内外に配信した。「MOTアニュアル」のカブニ・キワナガが第20回マルセル・デュシャン賞受賞。感染拡大防止のため東京アートブックフェアと協働しながら実施予定だった「アトリウムプロジェクト」の今年度実施は中止となった。</p> <p data-bbox="2059 1041 2804 1182">・感染拡大防止対策としてウェブ上の動画配信や、リモートのイベント、シンポジウム、講演会を実施したことが、結果的にバリアフリー、ホスピタリティの向上、広報を促進することになり、来場者数という結果に結びついた。 ・レストラン、カフェとも積極的に関連メニュー等を開発し、好評を得た。 ・地域連携については、東京アートブックフェアがヴァーチャル開催し、今後、リアルとヴァーチャルを両立させた実施モデル等の可能性を見出すことができた。</p>																																															
<p data-bbox="201 1045 774 1102">あらゆる鑑賞者に開かれた美術館の実現</p> <p data-bbox="201 1134 774 1260">⑦ バリアフリー・ホスピタリティを指向するアートの拠点化 ⑧ 地域の核としての存在</p>	<table border="1" data-bbox="834 1045 2000 1514"> <thead> <tr> <th>【定量目標】</th> <th>29年度実績</th> <th>30年度実績</th> <th>31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> <th>(成果、分析、評価、課題、対応)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観覧者数(人)</td> <td>8,687</td> <td>35,172</td> <td>528,178</td> <td>430,000</td> <td>437,375</td> <td>会場内の密を避けるため、一部の展覧会で予約制を取り入れるなど入場の規制を行ったものの、概ね予定した観覧者数を達成できた。</td> </tr> <tr> <td>自主事業参加者数(人)</td> <td>105</td> <td>4,648</td> <td>23,374</td> <td>40,000</td> <td>48,257</td> <td>展覧会関連事業をオンラインで開催するなどの対応により、目標を上回ることができた。今後も引き続き感染拡大防止に配慮しつつ積極的に事業を進めたい。</td> </tr> <tr> <td>《事業実績値》</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(成果、分析、評価、課題、対応)</td> </tr> <tr> <td>若手作家の支援(人)</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>30</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">/</td> <td>11</td> <td>MOTアニュアル展を中心に若手作家への支援につなげた。今後、さらに積極的に取り組みたい。</td> </tr> <tr> <td>協賛金獲得金額(千円)</td> <td>2,749</td> <td>250</td> <td>3,924</td> <td>17,733</td> <td>コロナ禍で企業からの協賛が厳しいことが予想されたものの、機材提供などを含め、多くの協力を得ることができた。この関係性を緊密に維持していくことが重要と考えている。</td> </tr> <tr> <td>HPアクセス件数</td> <td>523,655</td> <td>1,145,809</td> <td>6,339,514</td> <td>6,794,966</td> <td>オンライン発信を強化し、より多様な情報の提供に努めた。この方向性は今後も継続していく必要があると認識している。</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="834 1524 2000 1556" style="text-align: center;">総合的な所見(自己評価の総評)</p> <p data-bbox="834 1577 2000 1738">今年度は、当初予定していた展覧会ラインナップの変更や長期間の休館など新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けることとなった。コレクション展は、2度にわたり休室となった。企画展でも海外からの作品輸送の困難や作家の来日が不可能になるなど顕著な影響を受けた。その状況下で、出品作品の調整やリモートによる作家の展示指導などにより、できる限り展示の質を落とさず開催に踏み切ったことで、多くのお客様の来館につなげることができた。また、関連事業に関しても、オンラインでの開催を積極的に進めるとともに、来場者を制限しながらも上映会や作家によるトークを講堂で開催したり、聴覚障害者向けの手話によるギャラリートークを会場で行うなど、リアルでの開催も併せて行い、実物を目にすることの感動をできる限り伝える努力をした。教育普及事業においては、ネット環境が整っていない学校でも参加できる写真を用いたプログラムの開発や、来館者が個別に参加できるワークショップの開発など感染対策に配慮した新たなプログラムを開発し、今後の展開の手がかりを得た。コロナ禍にあっても事業を縮小することなく、安全対策と両立した積極的な展開を図ることで、コロナ後の美術館の在り方を考えるための端緒を拓くことができたと考えている。</p>	【定量目標】	29年度実績	30年度実績	31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	(成果、分析、評価、課題、対応)	観覧者数(人)	8,687	35,172	528,178	430,000	437,375	会場内の密を避けるため、一部の展覧会で予約制を取り入れるなど入場の規制を行ったものの、概ね予定した観覧者数を達成できた。	自主事業参加者数(人)	105	4,648	23,374	40,000	48,257	展覧会関連事業をオンラインで開催するなどの対応により、目標を上回ることができた。今後も引き続き感染拡大防止に配慮しつつ積極的に事業を進めたい。	《事業実績値》						(成果、分析、評価、課題、対応)	若手作家の支援(人)	17	14	30	/	11	MOTアニュアル展を中心に若手作家への支援につなげた。今後、さらに積極的に取り組みたい。	協賛金獲得金額(千円)	2,749	250	3,924	17,733	コロナ禍で企業からの協賛が厳しいことが予想されたものの、機材提供などを含め、多くの協力を得ることができた。この関係性を緊密に維持していくことが重要と考えている。	HPアクセス件数	523,655	1,145,809	6,339,514	6,794,966	オンライン発信を強化し、より多様な情報の提供に努めた。この方向性は今後も継続していく必要があると認識している。	<p data-bbox="2059 1045 2804 1182">(成果、分析、評価、課題、対応)</p> <p data-bbox="2059 1203 2804 1344">(成果、分析、評価、課題、対応)</p>
【定量目標】	29年度実績	30年度実績	31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	(成果、分析、評価、課題、対応)																																											
観覧者数(人)	8,687	35,172	528,178	430,000	437,375	会場内の密を避けるため、一部の展覧会で予約制を取り入れるなど入場の規制を行ったものの、概ね予定した観覧者数を達成できた。																																											
自主事業参加者数(人)	105	4,648	23,374	40,000	48,257	展覧会関連事業をオンラインで開催するなどの対応により、目標を上回ることができた。今後も引き続き感染拡大防止に配慮しつつ積極的に事業を進めたい。																																											
《事業実績値》						(成果、分析、評価、課題、対応)																																											
若手作家の支援(人)	17	14	30	/	11	MOTアニュアル展を中心に若手作家への支援につなげた。今後、さらに積極的に取り組みたい。																																											
協賛金獲得金額(千円)	2,749	250	3,924		17,733	コロナ禍で企業からの協賛が厳しいことが予想されたものの、機材提供などを含め、多くの協力を得ることができた。この関係性を緊密に維持していくことが重要と考えている。																																											
HPアクセス件数	523,655	1,145,809	6,339,514		6,794,966	オンライン発信を強化し、より多様な情報の提供に努めた。この方向性は今後も継続していく必要があると認識している。																																											
<p data-bbox="394 1766 611 1797">外部評価 評定結果</p>	<p data-bbox="1724 1766 1941 1797">総合的な意見(総評)</p>																																																
<p data-bbox="483 1818 522 1850">A</p> <p data-bbox="216 1892 715 1965">A: 目標を十分に達成し、成果を上げている B: 目標を概ね達成している C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>	<p data-bbox="834 1808 2804 1976">○令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響を受け、長期間の休館があり、開館した後も様々なコロナ感染対策を行いながらの開館となった。例年のような安定した運営状況のなかでの評価Aではなく、コロナ禍という状況のなかでの評価Aである。美術館が一丸となってコロナ対策を行い、成果を収めた証左であろう。 ○新型コロナウイルス感染拡大による企画の中止や延期、会期の延長・縮小、入場制限などの様々な対策の導入にもかかわらず、目標値を達成し、例年と比較しても遜色のない数字を達成したことは大きく評価する。 ○コロナ禍の状況にありながら、オンラインの活用や新しいプログラムの開発を進めるなど、コロナ後にもつながる新しい事業を実施したことの意義は大きい。 ○展覧会再開に際しては、気持ちが疲弊した人々が多く訪れ、オープンを待っていた来館者の気持ちが汲み取った美術館の確固たる姿勢を感じた。 ○展覧会事業、教育普及事業、図書室の運営、広報、館の管理等、多岐に渡る業務をこなし、コロナ禍においても確実に成果を出している。しかしながら、この成果が安定、充実した人数、組織の中で出されたわけではなく、このような美術館活動を支えるには現在の組織体制(スタッフ数)では一人一人の負担が大きすぎ、無理がある。体制の強化を望む。</p>																																																

基本方針	達成目標	成果と課題																																																						
<p>東京都美術館は、「アートへの入口」となることをめざします。展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害を持つ人や外国人が気軽に来館できる美術館とします。</p> <p>訪れた人が、新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」に出会える場とします。</p> <p>そして、人びとの「心のゆたかさの拠り所」となるようにします。</p> <p>そのため、美術館の運営にあたって4つの基本方針を掲げます。</p> <p>1 「世界と日本の名品に出会える美術館」 首都東京にふさわしい魅力的な展覧会を開催し、国内外の優れた作品を鑑賞する場を提供していきます。 また、日本人の現存作家の仕事に光を当て、幅広く紹介する場を設けます。</p> <p>2 「伝統を重視し、新しい息吹との融合を促す美術館」 伝統と新しい感性との出会いを促す役割を担います。そして、新旧取り合わせの中から、美にあふれたライフスタイルを提案します。</p> <p>3 「人々の交流の場となり、新しい価値観を生み出す美術館」 鑑賞者と作り手が一体となって、新たな表現活動の土壌と価値観を創造できるよう、豊かな芸術環境を提供していきます。</p> <p>4 「芸術活動を活性化させ、鑑賞の体験を深める美術館」 展覧会事業やアート・コミュニケーション事業と一体となって展開し、鑑賞者が美術作品をより深く享受できるよう努めています。</p>	<p>(令和2年度における目標)</p> <p>1 指定管理期間最終年度として計画事業を着実に実施するとともに、東京2020大会期間中とその前後は、都の政策を踏まえながらTokyo Tokyo FESTIVALやアートポスター展など文化の祭典にふさわしい取組みも積極的に進める。多言語対応・バリアフリー化を継続的に進め、誰もが来館しやすい環境の向上を図る。英文ツイッターによる配信、地域とのタイアップなど多角的な広報を積極的に展開する。上野地区の魅力を高めるため、関係機関と一層の連携を図り、効果的な事業展開を図る。来館者の安全安心の確保を第一に、ホスピタリティの向上に努め、施設の万全な管理に努めていく。</p> <p>2 「展覧会事業」では、「ポストン美術館展 芸術×カ」、「The UKIYO-E 2020 ― 日本三大浮世絵コレクション」、「イサム・ノグチ 発見の道」、「世界遺産ローマ展」の4つの特別展のほか、企画展として「Walls&Bridges 世界にふれる、世界を生きる」など、東西の名品から現代の多様な価値観を紹介するユニークなグループ展まで、東京2020大会開催年にふさわしいラインナップにより国内外からの観覧者を迎える。また、令和3年度以降の展覧会の準備を着実に進んでいく。</p> <p>3 「公募展事業」では、学校教育展・公募団体展を円滑に実施するとともに、令和4年度から令和8年度までの使用割当を円滑に決定する。「上野アーティストプロジェクト2020読み、味わう現代の書」は、書の関係団体の協力を得ながら、一般の来館者に書に親しんでもらえるよう、広報等も工夫し魅力ある展覧会としていく。また、公募団体と連携して実施する「文化芸術体験プログラム」については、東京2020大会期間を中心に一層緊密に展開する。</p> <p>4 「アート・コミュニケーション事業」では、市民と東京藝術大学と共に推進していく「とびらプロジェクト」と、子どもたちのミュージアムデビューをバックアップする「MuseumStart あいうえの」の2大プロジェクトに引き続き取り組んでいくとともに、展覧会と連携した教育普及事業も着実に実施する。これらの事業を通して、Well-being実現に向けてアートを介した人々の繋がりを形成する。</p> <p>5 「アメニティ事業」では、佐藤慶太郎記念アートルウンジとアーカイブ機能を付加した美術情報室とを一体的に運営するとともに、レストラン・カフェやショップの運営も、展覧会事業やアート・コミュニケーション事業と連携して展開する。また、東京2020大会期間中の臨時開館等やユニークベニュー等により館の施設・設備を有効に活用することで、サービス向上を図り来館者の満足度を一層高める。</p>	<p>(成果、分析、評価、課題、対応)</p> <p>COVID-19の世界的拡大により東京2020大会が1年延期となり、館としても来館者の安全安心の確保を第一にして、感染拡大防止に取り組んだ。4月から6月までは臨時休館し、以後は検温や消毒をはじめとして、感染防止対策を万全にしながら慎重に運営を行った。休館中も双方向性のあるSNS機能を積極的に活用して外部とのつながりの継続につとめ、外部資金を活用して上野の他の施設と連携ガイドを作成するなど新たな広報展開を実施した。指定管理期間最終年度として、事業を確実に進めるとともに、来館者への情報提供、ホスピタリティの向上に努め、施設の確実な管理を行った。</p> <p>「ポストン美術館展 芸術×カ」と「世界遺産ローマ展」はロックダウンにより海外から作品輸送の目的が立たずに中止となり、「イサム・ノグチ 発見の道」と「Walls&Bridges 世界にふれる、世界を生きる」は令和3年度に延期となった。「The UKIYO-E 2020 ― 日本三大浮世絵コレクション」そして「没後70年吉田博展」では、厳密な入場規制を行い、感染拡大防止を最優先にして運営を行った。人数制限下の良好な鑑賞環境により、来場者の満足度は高かった。また、当館では初めてオンライン上で両展のVR展示を行い、ICTを使った事業展開を図った。延期した展覧会をはじめ、令和3年度以降の展覧会の準備を着実に進めた。</p> <p>令和4年度から令和8年度までの5年間の使用割当を各団体に丁寧に説明しながら円滑に決定した。また、COVID-19の影響下で学校教育展・公募団体展の中止が相次いだ。感染防止対策を適切に行って施設を運営した。「上野アーティストプロジェクト2020読み、味わう現代の書」は、目標人数には届かなかったが、各新聞で取り上げられるなど評判が高く、また来場者の満足度も高かった。「文化芸術体験プログラム」については、東京2020大会の延期に伴い、令和3年度に延期とした。</p> <p>事業の多くを4月よりオンラインに切り替えて実施。「とびらプロジェクト」のとびらの自主的会議「とびらボ」の数は例年の約2倍も開催され、その影響が10期とびらの応募は例年平均が240通程度のところ、361通に大幅に増加した。また「Museum Start あいうえの」学校プログラムではCOVID-19対応で休室中の展示室を活用し展覧会の舞台裏紹介を行った。SDGsをテーマとしオンラインも併用した高校との連携は動画を制作しウェブサイトに掲載し、全国美術館会議の教育普及研究部会にて報告発表。ファミリープログラムもオンライン併用によりCOVID-19禍でも参加者を激減させることなく実施した。例年とは異なる状況について3本の小論としてまとめ、紀要に公開した。</p> <p>佐藤慶太郎記念アートルウンジは、COVID-19感染拡大防止のためテーブルと椅子を一部撤去して、三密にならない管理運営に留意した。10月から12月にかけては「旧館を知る」と題して、1926年に開館した東京府美術館の施設と歴史を詳しく紹介し、多くの来場者に好評を博した。レストランとカフェの運営は、一部休止するなど柔軟に対応しつつ、消毒やアクリル板の間仕切り、席数の縮小などの対策を行って営業した。また、佐藤慶太郎のご遺族からの寄付をもとに映像「佐藤慶太郎と東京都美術館の歩み」を制作した。</p>																																																						
<p>この基本方針のもとに4つの事業を展開します。</p> <p>① 展覧会事業＝見る喜び・知る楽しさ(鑑賞体験)の提供 ② 公募展事業＝つくる喜び(表現の場)の共有 ③ アート・コミュニケーション事業＝アート・コミュニティ形成による新たな可能性の探求 ④ アメニティ事業＝アートルウンジや美術情報室、ミュージアムショップ、レストラン等、訪れる楽しみ(居心地の良さ)の充実</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量目標】</th> <th>H29年度実績</th> <th>H30年度実績</th> <th>H31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別展観覧者数(人)</td> <td>1,239,393</td> <td>1,510,905</td> <td>1,038,920</td> <td>850,000</td> <td>136,913</td> </tr> <tr> <td>自主企画展観覧者数(人)</td> <td>119,430</td> <td>129,580</td> <td>69,250</td> <td>62,800</td> <td>9,003</td> </tr> <tr> <td>公募展示室稼働率(%)</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>100.0(割当時)</td> <td>100.0</td> <td>100.0(割当時)</td> </tr> <tr> <td>《事業実績値》</td> <td>H29年度実績</td> <td>H30年度実績</td> <td>H31年度実績</td> <td>R2年度目標値</td> <td>R2年度達成値</td> </tr> <tr> <td>附帯事業収入(千円)</td> <td>154,252</td> <td>178,102</td> <td>146,044</td> <td></td> <td>32,326</td> </tr> <tr> <td>協力金等収入(千円)</td> <td>61,598</td> <td>92,678</td> <td>65,607</td> <td></td> <td>7,810</td> </tr> <tr> <td>アート・コミュニケーション事業参加者数(人)</td> <td>36,097</td> <td>38,749</td> <td>27,889</td> <td></td> <td>5,365</td> </tr> <tr> <td>HPアクセス件数</td> <td>12,993,661</td> <td>17,949,956</td> <td>16,704,295</td> <td></td> <td>8,000,324</td> </tr> </tbody> </table>	【定量目標】	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	特別展観覧者数(人)	1,239,393	1,510,905	1,038,920	850,000	136,913	自主企画展観覧者数(人)	119,430	129,580	69,250	62,800	9,003	公募展示室稼働率(%)	100.0	100.0	100.0(割当時)	100.0	100.0(割当時)	《事業実績値》	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	附帯事業収入(千円)	154,252	178,102	146,044		32,326	協力金等収入(千円)	61,598	92,678	65,607		7,810	アート・コミュニケーション事業参加者数(人)	36,097	38,749	27,889		5,365	HPアクセス件数	12,993,661	17,949,956	16,704,295		8,000,324	<p>(成果、分析、評価、課題、対応)</p> <p>COVID-19の影響を受けて目標値は大きく下回ったが、2展のお客様満足度はいずれも95%以上だった。</p> <p>COVID-19の影響を受けて企画展は延期した。上野アーティストプロジェクトの観覧者数は目標を下回ったが、お客様満足度は92.9%と目標を大きく上回った。</p> <p>100%の割り当てを行った。</p> <p>(成果、分析、評価、課題、対応)</p> <p>COVID-19の影響を受け、例年の実績額から達成値は大きく下回ったが、営業時間の短縮や、提供メニューを絞るなど厳しい営業環境を乗り越えるべく、柔軟な対応をおこなった。</p> <p>COVID-19の影響を受け、予定されていた特別展が中止になったことにより例年の実績額から達成値は大きく下回ったが、急遽、特別展を誘致するなど、収益の確保に努めた。</p> <p>特別展の関連プログラムなどは大幅に減ったが、COVID-19禍に対応しオンラインを使った活動が活発に行われた。R3年度はR2の経験を生かしオンラインとリアルを効果的に組み合わせた事例を、ウェブや書籍などでより「見える化」するように努める。</p> <p>COVID-19の影響を受け展覧会の回数が減った影響はあったが、状況の変化にすばやく対応してSNSやオンライン配信なども活用し、様々な情報提供を行った。</p>
【定量目標】	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																																			
特別展観覧者数(人)	1,239,393	1,510,905	1,038,920	850,000	136,913																																																			
自主企画展観覧者数(人)	119,430	129,580	69,250	62,800	9,003																																																			
公募展示室稼働率(%)	100.0	100.0	100.0(割当時)	100.0	100.0(割当時)																																																			
《事業実績値》	H29年度実績	H30年度実績	H31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																																			
附帯事業収入(千円)	154,252	178,102	146,044		32,326																																																			
協力金等収入(千円)	61,598	92,678	65,607		7,810																																																			
アート・コミュニケーション事業参加者数(人)	36,097	38,749	27,889		5,365																																																			
HPアクセス件数	12,993,661	17,949,956	16,704,295		8,000,324																																																			
	<p>総合的な所見(自己評価の総評)</p> <p>令和2年度は、COVID-19の世界的拡大により4月から6月までは臨時休館としたが、7月以降は感染拡大防止対策を第一としながら慎重に運営を行った。休館中、「ポストン美術館展」ではHPや双方向性のあるSNS機能を積極的に活用し、オンラインでのコンテンツ紹介に努めた。夏の「The UKIYO-E 2020」展では日時指定制、冬の「没後70年吉田博展」では整理券の発行により、厳しい入場規制を行った。総入館者は減ったが、人数制限により鑑賞環境は良好となり、来場者の満足度は高かった。吉田展では外部資金を活用して上野の他の施設との連携ガイドを制作するなど新たな試みを行った。公募展事業では、令和4年度から令和8年度までの5年間の使用割当を決定し、100%割り当ての目標を達成した。また、学校教育展・公募団体展の中止が相次いだ。開催する団体には感染防止対策の協力を要請しながら安全な施設運営を推進した。「上野アーティストプロジェクト2020」及び「コレクション展」では、目標人数には届かなかったが、オンラインで初めてギヤラリートを配信し、また新聞紙4紙に展評が掲載されるなど評判は高かった。「アート・コミュニケーション事業」の「とびらプロジェクト」では多くを講座やミーティングをオンラインに切り替えて実施した。その結果、とびらボが自主的に開催する「とびらボ」の参加者数は例年の約2倍にのぼるなど活発な活動を展開し、とびらボへの応募数も例年平均の5割増となった。また、「Museum Startあいうえの」ではCOVID-19禍に対応したオンラインと実地を組み合わせたプログラムや休室中の企画展示室を活用したプログラムを行い、参加者を激減させることなく実施した。アメニティ事業では、ショップやレストランとの緊密な連携を図り、いわゆる三密にならない管理運営に留意した。以上のとおり、令和2年度はCOVID-19の影響を受けたが、一方でオンラインでの会議や発信など新たな取組みをはじめ一定の成果も得られたことから、令和3年度においては、COVID-19拡大防止対策を着実に実施するとともに、ポストCOVID-19を見据えた事業を展開していく。</p>																																																							
<p>外部評価 評価結果</p>	<p>総合的な意見(総評)</p>																																																							
<p>A</p> <p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている B: 目標を概ね達成している C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>	<p>COVID-19パンデミック襲来下の一年となった2020年度、本館もその試練を受けることになった。計画された大規模展覧会のうち2本は中止、1本は延期となり、開催に至った展覧会も様々な制約を免れなかった。それ以外の諸事業も、多くの影響を受けた。長い時間を要する諸準備の多くが実りを奪われ、あるいは抑制された。しかし、感染症予防、蔓延防止対策を徹底しつつ、可能な条件を生かし、創意をもって諸事業・活動を展開し、COVID-19にもかかわらず、本館は多くの実りを残した。このことをまず、敬意をもって評したい。しかも、本年達成しえた事柄は、COVID-19禍下ゆえに美術館とは何であるかという本源的な問いに立ち返りながら、同時にインターネットなどの現代的な可能性に依拠し、さまざまに工夫しながら試みられ実現されたことだけに、来館者数や収入の減少を補う意義を有するものであった。それは、とりもなおさず、COVID-19とインターネットとに代表されるグローバルな時代・社会の中の美術館の存在意義と可能性の探求に、一つのよりどころを提供するものに他ならない。</p> <p>休館あるいは展覧会の中止のため観覧者・収入等の数値は目標に達しなかったが、すべての美術館・博物館がCOVID-19禍により同様の影響を受けており、問題とするに及ばない。全体としては国と都の方針に従い、感染防止対策を最優先した安全な運営が行われ、公募団体や展覧会共催者との調整、一般利用者への広報等と評価できる。イサム・ノグチ展の延期、吉田博展の開催など臨機応変に対応できたことは良かった。オンライン上のVR展示、アート・コミュニケーション事業など着実に成果を上げている。世界中の美術館がCOVID-19に振り回された困難な1年であり、同時に、今後の美術館運営にとって重要な試行がなされた年でもあった。例えば、都美において長らく課題であった混雑・行列問題が、日時指定券の導入により図らずも解決され、鑑賞環境が向上した。COVID-19後も、適切に日時指定制を取り入れていただきたく思う。展覧会事業がこれまでどおり展開できない中、アート・コミュニケーション事業と広報は、ウェブサイト、SNS、オンライン会議システム等を駆使して、これまでとは違う展開を成し遂げた。アート・コミュニケータのミーティング頻度が倍増し、応募者が過去最高となった背景には、COVID-19で変容が加速する。社会のデジタル化がそのまま反映しているといえる。距離や時間の壁を超えることのできるICT技術を活用して、COVID-19後の美術館は、来館者(もう来館者と叫べないのかもしれない)と、リアルとバーチャルを両方使ってハイブリッドに関わることが求められるようになると思われる。これを機に次の使命として、「多くの人が来館する都美」だけでなく、「多様な人とつながっている都美」であることを意識していくべきではないかと思う。</p> <p>大規模展覧会や教育普及事業のあり方が問われる中で、日本を代表する美術館の一つとして、利用者の視点に立ちながら美術館事業の新しい方向性を今後打ち出していくことを期待したい。</p>																																																							